



## ヨシは、川の水をきれいにするって本当なの

### ヨシ原には、水をきれいにする生き物がすみつく

ヨシは、水辺に生えているイネのような草で、冬は地下けいを残してかれてしまい、3月ごろ芽を出します。4月になると、1日に5センチメートルぐらいの割合でのび続け、7月ごろには3メートルにもなります。水がよごれた所でもよくしげり、ヨシが水辺に生えている川は、水が少しよごれているともいえます。

根が半分水につかっていることが多いヨシの原には、巻き貝やプランクトンがたくさんすみつき、ヨシのくきには、もなどがくっついていきます。巻き貝やプランクトンは、水中のごみである有機物(植物や小動物の体が、微生物などによって分解されてできる栄養分)を食べ、もなどは、洗剤などに多くふくまれている、ちっ素やリンなどを、栄養分として取りこみます。

### 川によごれの原因は、家庭排水

川によごれのおもな原因は、人間が家庭でいろいろの水を使って出てくる、家庭排水のことが多いものです。台所から出る排水や、洗たくで出る排水は、ヨシの原にすんでいる生き物が、きれいにしてくれるといえます。

家庭排水でよごれた東京都葛飾区の大場川で、ヨシ原を植える実験が行われました。その結果、はば50メートル、長さ700メートルのヨシ原を通過してきた川水は、次のようにきれいになりました。

にごり物質やちっ素の量は2分の1に減り、BOD(生物化学的酸素要求量、この数字が大きいほど水がよごれている)はおよそ4分の1になり、とう明度は約10倍まで上がりました。(監修・矢野 亮)

